「台東区立図書館取組方針」を策定しました

●策定の目的

台東区立図書館では、これまで図書や地域の歴史文化資料の収集・保存、子供の読書推進などに取り組んできましたが、近年、情報メディアの発達や個人貸出数の減少など、図書館を取り巻く状況は変化しています。

そのため、区では今後の図書館運営に向け、平成28年度に「台東区立図書館の基本的な考え方」を策定し、目指す図書館像と基本方針を定めました。

このたび、その目指す図書館像と基本方針をさらに推進するため、具体的な取組などを加えた「台東区立図書館取組方針」を策定しました。

●目指す図書館像

身近な情報拠点として区民の暮らしに寄与することと生涯を通じて学ぼうとする区民に必要な資料を提供するため、次の２つの図書館を目指します。

区民の役に立つ図書館　　**生涯学習を支える図書館**

●基本方針と主な取組　目指す図書館像を実現するため、次の4つの基本方針に基づき取組を行います。

「知りたい・学びたい」に応える

地域、区民の関心の高いテーマや課題など、区民に役立つ資料・情報を収集し、区民の求めに応じ的確・迅速に提供します。

《主な取組》
○資料の充実
○レファレンス資料・情報の充実
○テーマコーナーの設置
○情報発信の強化

歴史・文化を伝える

先人たちが大切に守り、育み、現代へ継承されてきた郷土資料を収集・保存・展示し、台東区の歴史・文化に親しめる環境を整備します。

《主な取組》
○歴史・文化に関する資料の収集と提供
○小中学生が歴史や文化に親しめる環境づくり
○郷土・資料調査室の利用促進

「江戸名所尽　金龍山浅草寺雷神門之図」／台東区立図書館蔵

子供の成長を支える

子供が読書に親しむための読書環境の充実や、子供の健やかな成長を支えるための読書活動を支援します。

《主な取組》
○作品に触れる子供向け事業の実施
○子供の調べ学習支援
○教職員や学校図書館ボランティアへの支援

絆が生まれる

気軽に図書館を利用し、人との出会いや地域における交流が深まる契機となる取組を行います。

《主な取組》
○ワークショップなどイベントの実施
○子供の読書活動を支える人材の育成
○読み聞かせボランティア連絡会の実施

●お問合せ先：中央図書館企画担当　☎5246－5911

連載　子供に聞かせたい、こんな話　その27

こころざし高く

日本のカーネギー　―佐藤（さとう）慶太郎（けいたろう）―　後編

～慶太郎は、「石炭の神様」と言われるほどになり、独立して自分の店を持つことになりました。～

ちょうどこの頃、運命の人の存在を知ります。それが、伝記を読んで知ったアメリカの鉄鋼王カーネギーです。「人はお金持ちのまま死ぬのは恥ずかしいことだ」という考え方に共鳴しましたが、それ以上に共感したのは、十二歳のカーネギーが工場の職人として働いていた貧しい時代に、収入の十分の一を慈善事業に寄付していたということでした。このカーネギーを知ったことが慶太郎の、今後の人生を決め、これが美術館の誕生へとつながるのです。

石炭商として成功した慶太郎は、将来有望な青年たちの学費を応援しました。カーネギーの精神を実行に移したのです。慶太郎に応援してもらった青年達は各界で活躍しました。

そんな時に、新聞でこれからの日本に必要なものは文化であり、日本にはなかった常設の美術館が必要との意見を目にしました。まだ日本には美術品を買ったり、美術館を建築したりする資金を用意する力がなかったのです。

この意見に共感した慶太郎は、財産の半分を東京府に寄付しました。その額は、今のお金で言うと数十億円になります。寄付を受けた東京府は、このお金を使って東京府美術館を作りました。こうして一九二六年（大正十五年）、日本で初めての公立の美術館ができたのです。その資金は全て佐藤慶太郎が出したものでした。

このきっかけになったのが、カーネギー精神なのです。有名なカーネギーホールに名前を残していますが、カーネギーは文化事業に多大な寄付をしていました。慶太郎は、成功したとは言え、特別なお金持ちだったわけではありませんでした。尊敬するカーネギーを見習ったのです。佐藤慶太郎はこうして、日本のカーネギーと呼ばれるようになりました。

慶太郎の日本のカーネギーとしての活動は、これだけに終わりませんでした。日本は、世界の列強と肩を並べるようになったとは言え、まだ国民の生活は貧しかったのです。これを改善しようと慶太郎が始めたのが、「生活の改善」です。「佐藤新興生活館」を建設し、女性の教育や国民の生活の改善に努めました。「佐藤新興生活館」は、今は「山の上ホテル」になっています。

佐藤慶太郎は一九四〇年（昭和十五年）に亡くなりますが、遺書には全財産を公共のために使うようにと書かれていました。

【出典】斉藤泰嘉「佐藤慶太郎伝　東京府美術館を建てた石炭の神様」石風社２００８年
【監修】佐藤慶太郎顕彰会代表・筑波大学名誉教授・星のおじさま美術館学芸員　斉藤泰嘉
※出典を参考文献として文章を構成しています。
中学校１～３年生用こころざし教育副読本に掲載
お問合せ先：教育支援館　☎５２４６-５９２１

懐かしの写真（連載）

『吾妻橋交叉点』　昭和33.10

昭和33年の吾妻橋の風景です。東向島から浅草、上野を経て須田町まで走る都電30系統が見えます。右手には地下鉄銀座線浅草駅入口があります。戦争で多くの車両を失った都電も、この頃には線路・車両ともに復旧し、人々の重要な足となっていました。同年、浅草寺本堂が再建され、浅草はおおいに賑わっていました。

撮影：髙相嘉男氏

※今回の写真は、中央図書館で閲覧できるほか中央図書館ホームページでも公開しています。ぜひご覧ください。

リレートーク　連載29

地域とともに

尾澤　麻美子
（台東区立谷中保育園　園長）

厳しい寒さも落ち着き春の訪れを感じさせる頃、谷中保育園のホールでは日舞の伝達式が行われます。就学を迎える年長クラスから来年の年長クラス（現4歳児クラス）に衣装の着物や小道具などを引き継ぐ式です。

年長児の日舞の発表を憧れの眼差しで観ていた4歳児クラスの子供たちは、期待をいっぱいに秘めたキラキラした目で舞扇や着物、袴を受け取ります。

谷中保育園では、毎年5歳児が近隣のボランティアの方から日本舞踊を教えていただいています。月2回隔週のお稽古ですが、浴衣に白足袋ならぬ白ソックスの姿に、年下クラスの子供たちは憧れの気持ちを抱いているのです。

耳慣れない音楽に、普段はしたことないような動き。戸惑うことも多いのですが、秋の「萩の会（敬老会）」を目指して練習を重ねています。そして園での発表の後には「谷中まつり」の大舞台が待っているのです。

緊張の中、踊り終えた子供たちの表情は、やり遂げた達成感でいっぱいです。このように地域の皆様に助けられての活動が、本園にはたくさんあります。魅力ある教育活動では地域で教室を開いている講師から歌唱指導を受け、発表会での歌や合奏に活かしたり、地域の健康祭りに招かれて歌ったり、年度末のコンサートで素敵な歌声を披露しています。

年末の「谷中銀座の散策」や年始の「七福神めぐり」では声を掛けてくださるご近所の方もたくさんいらっしゃいます。色々な場面で地域の方々に見守られ、応援していただき、地域の中で育まれていく子供たち。地域と園が手を取り合って一緒に子育てが出来るような、そんな地域に根差した園を目指していきたいと思います。

VEGETABLE OIL INK